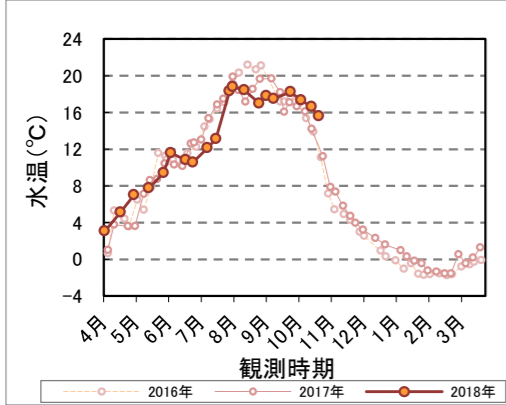


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2018年10月)

海洋環境データ

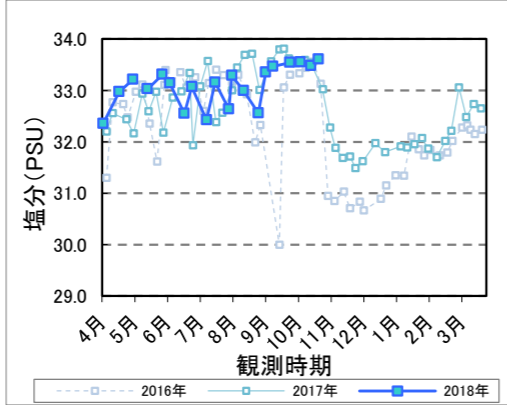
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



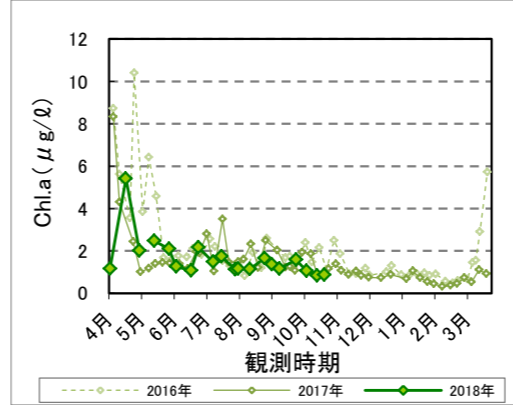
※5月7日は欠測のため非表示

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※5月7日は欠測のため非表示

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

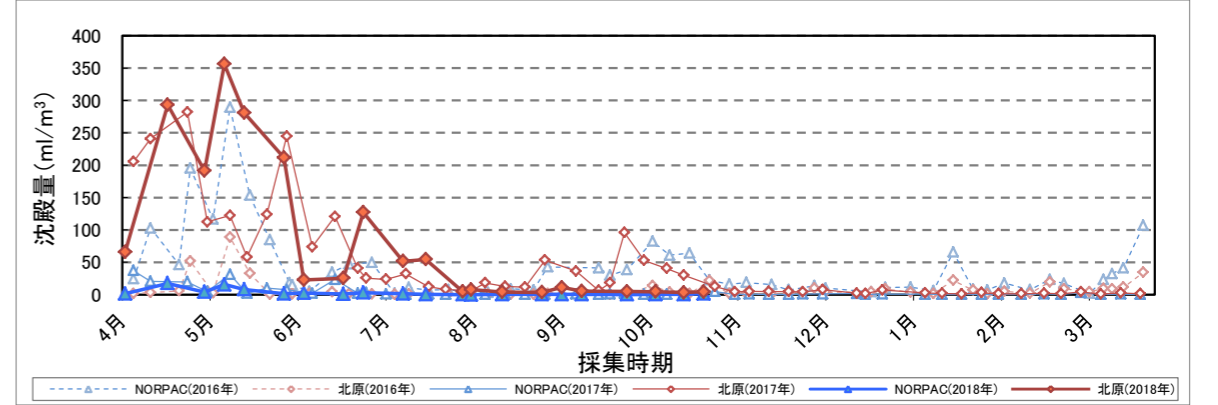


※5月7日は欠測のため非表示

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

Table with 3 columns for dates 10月6日, 10月16日, and 10月23日. Rows include average water temperature, salinity, Chl. a, sedimentation (NORPAC and Beppu nets), and main species found in each net type.

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for species: Paracalanus parvus s. l., Copepoda (nauplius), Temora discaudata, Podon polyphemoides, and Oithona similis.

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に「◎」がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の「+」は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。

※参考文献：

List of references including: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説, ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑, ③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑, ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica, ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門, ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus Centropages, ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について, ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類(生物研究社), ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン[技術評論社], ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新 北のさかたな[北海道新聞社], ⑫古賀 (1960) Centropages abdominalis SATOのノープリウス幼生, ⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長, ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類Polydora属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況, 日本水産学会誌 66 (10), 1593-1598.